

自社給油でコスト減



石倉商事が導入した米国製の「コンボルトタンク」(右)と給油スタンド。滑川市追分

運送業の石倉商事(滑川市笠木、石倉真樹代表)は、自社倉庫の敷地内に大型軽油タンクと自前の給油スタンドを設置した。保有するトラックへの給油を全て自社で行うことで燃料コストを約10%削減するとともに、スピーディーに作業できる専用設備により従業員の負担軽減を図る。

同社は2005年設立で従業員は約70人。大型トラックなど65台を保有している。以前は本社から約3km離れたガソリンスタンドを利用していましたが、昨春秋、滑川市追分の倉庫敷地内に容量2万8800リットルのタンクと給油設備を設けた。自社タンクの活用で1カ月に約180万円のコスト

削減を実現。さらに、専用の給油設備により作業時間の短縮など効率化につながった。

石倉商事 米国製タンク導入

燃料タンクは頑丈さで知られる米国製の「コンボルトタンク」を採用。鋼製タンクの周りがコンクリートやポリエチレンシートなどで覆われており、劣化状態を自視で確認できるため、地下タンクに比べて油漏れのリスクが低いという。国内では防衛省や船舶会社などが導入しており、コンボルトタンクの販売代理店であるシゲミコウキ(横浜市)によると北陸三県の民間企業の導入は初めて。石倉代表は「原油価格の高騰が続く中、自社タンク導入の効果は予想以上に大きい」と言う。シゲミコウキの重見太郎社長は「今回の導入事例をきっかけに、富山県内での提案を強化していきたい」と話した。